

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	医療法人社団聖雄会	代表者	星野正明	法人・事業所の 特徴	母体が医療法人なので健康方面での医療的支援が速やかにできます。地域とのかかわりを持ちながら通いと、宿泊、訪問を柔軟に組み合わせ、登録された利用者さんの状態に応じ、その人らしく住み慣れた地域で普通の暮らしができるように支援しています。
事業所名	小規模多機能ホームこでまり	管理者	園田美江		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	1人	1人	1人	0	9人	人	17人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> 「できていない」点について、改善計画に取り組んでもらい、より良いサービスの提供に努めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦の影響で今回が初めての取り組みだったこともあり、職員は戸惑ったことが多くあった。次回からは求められていることを、より自覚し、業務にあたっていく。 今回自己評価を行なった事で出来ている事、出来ていないの再確認し合えた。振り返りを行うよい機会になった。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> 事業所の存在が地域にあまり知られていない。もっと知名度を上げる必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所以外に案内看板がなく、事業所の場所が住宅地でなく準工業地域にあることなどが地域に知られていない原因のひとつではないかと考える。 今後地域の会議や集まり積極的に参加することによって事業所のことを知っていただく努力をしていく。
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦でボランティアの受け入れや地域の方々との交流がほとんどできないのはやむを得ず、理解できる。しかし職員の仕事ぶりや利用者の様子を知る機会がほとんどないのは残念だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会長や民生委員、地域包括支援センターと連携し、地域と関わりがもてるように、知恵を出し合っていきたい。 書面資料の充実を図る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦で利用者の家庭や地域での生活支援になかなか入り込めない面もあるだろうが、小規模多機能居宅介護の趣旨を生かして、利用者の生活全般について目を配って支援を行って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の通所サービスでの様子や、利用者宅の訪問及び家族とのコミュニケーションなどで利用者へのサービスニーズをくみ取り、職員全員で共有しあうことで、よりよいサービス提供につなげていきます。

E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> •コロナ渦のため運営推進会議は書面会議を継続しているが、書面資料だけでは伝わらないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> •コロナ渦が収束するまでは書面会議を継続する予定であるが、可能な限りわかりやすい資料や写真により事業所の様子を運営推進会議のメンバーに提示したい。またメンバーからの意見をできる限りくみ取る努力をする。
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> •近隣の住民の一時的な避難地として、事業所を利用したい。 •災害時での協力体制をつくっていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> •災害時には地域の方々の一時避難場所として受け入れることができるよう、開所当初より配慮している。地域の方とはお互いに協力体制を維持していききたい。 •事業所の防災計画を運営推進会議で公表し、地域の意見も取り入れながら、よりよい災害対策を考えます。